

## 日暮れ

行くあてのない想いが消え去ったあの彼方から  
頼りないオレンジ色の光が褪せてゆく彼方から  
ゆったりとした波がこちらの岩を抱き締めに来る

佇む人の足下に座っている犬も待ち受ける  
ほんのかすかな待ち人の希望がかなうことを  
おそらくはその人よりも信じきって、待ち受けている

潮が満ちてくるにつれ、明るさが失せてゆく  
このまま全てが闇の中に消え去ってしまうことが  
この待ち人がただ、虚しく立っているだけだということが  
彼には思いもよらず、ひたすら待ち続ける

今、揺らめきの中に沈もうとする時、その人はしゃがむ  
その両手で彼の首筋がそっと撫でられたとき  
彼には待ち人のかすかな淋しみと情愛と切なさ  
未だ彼は見たこともない或面影とが感じられ、ふと傍らの人を見る

(1984.5.5)